

十一月十三日義季二頓云
頓首頓進
殊母衣一而
情動
不自勝矣乃左而固反
塞不次王羲之書于
机

「落ち穂拾い記」(中) ③

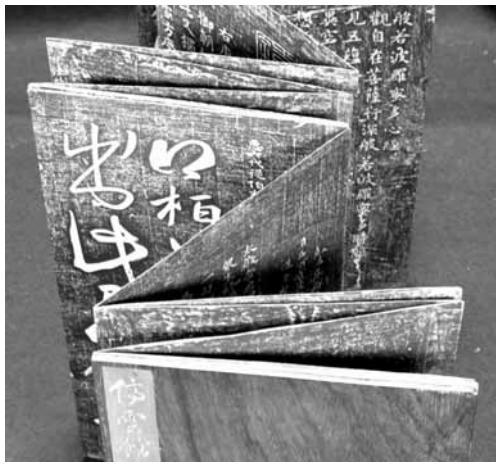
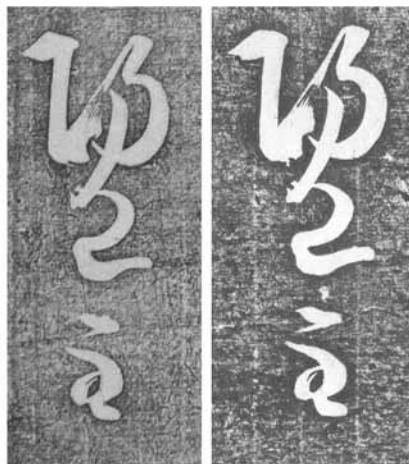
両面装 (図版③)

『停雲館帖』(中)

(図版①)

真賞齊帖

(北京・故宮博物院蔵) 停雲館帖・木鶴室本



『停雲館帖』が、優れた法帖であることを認識し始めてから、これまでに多くの資料を得てきた。影印資料は、先に示した二種の他に、近年中国でも『停雲館帖』の大型の図版を多用した研究書が刊行され、各地の公共機関所蔵の資料図版が部分的であるが発表されている。日本では、前回示した一種である。現在家蔵には、清朝後期の原刻『停雲館帖』(卷1から卷6までの6帖)と清朝前期の旧拓本(卷1から卷12まで全12巻・全6帖)の2件がある。前者は、後半が欠けた不全本であるが、後者は、完全な揃い本である。この本は、偶然のことから20年ほど前に入手した。これまで各種の『停雲館帖』を見てきたが、拓調、装幀、手拓年代などの面から、最も優れた法帖であると考えている。簡単に紹介しよう。拓調は、擦拓法による淡い蝉翼拓であり、字画は鮮明であり、薄い拓紙の滲き目まで鮮明に見る事ができるほどの美事さである(右頁主図版)。この種の拓で、天下の稀本と称される火前本『真賞齊帖』の優れたものとほぼ同じ拓調である。(図版①) また装幀が、大変素晴らしい。先に「旧拓本(卷1から卷12まで全12巻・全6帖」と述べた部分で、疑問に感じられた方があるかもしれませんのが、「全12巻・全6帖」の部分である。図版に示したように「1帖」に二卷分が装幀され、巻頭の表紙に巻1の題簽があり、巻末の裏表紙に巻2の題簽がある。つまり表から見れば、巻1を開くことが出来、同じようにして裏表紙を表にして同じよう開けば、巻2を見ることが出来るように装幀されている。「両面装」である。洋服にあるリバーシブル(裏返しえどき、裏面も表面と同様に使用できる両面仕立て)と同じである。(図版②・③) 明清時代の法帖に僅かにこの「両面装」を見る事が出来る。表紙は、銘木の材を用い、題簽部分は、別種の材をつかい象嵌風にはめ込み、題字を刻している(図版③)。実際に手の込んだ装幀である。右の主図版として、巻2の王羲之の重厚な書風の名作「姨母帖」の巻頭部分を原寸で示した。伊藤滋(書斎名・木鶴室)

書道芸術院

令和の群像 (2023)



第72回 每日書道展会員賞受賞作品「いのり」

千葉紅雪書

「祈りの形を求めて」

「祈り」というテーマで制作を続け20数年を迎えます。いつも答える見えないもどかしさに苦しみながらも、今も答えを求めて続けています。

3年前、國らずも第72回毎日書道展で会員賞をいただいた際のインタビュー、「書があつたから生きてこれた」と即答したこと思い出しました。高校生の息子を突然失い、抜け殻のようになった私に、書友はいつも通りに練成会に誘い、制作した作品を批評し、『書』を片時も離さない環境を作ってくれました。そのおかげで私の一番の応援者だった息子に「祈り」が届くような作品を作りたいという思いが湧きました。「書があつたからこそ」という言葉そのものの年月を過ごしてきました。

11年前、東日本大震災に襲われ、私が住む石巻は大きな被害を受けました。私は、当時避難所になつた高校で養護教諭をしていました。たくさんの被災者が身を寄せ合ひ、多くのものを失ながらも互いを思いあう場面に遭遇し、人間の強さや柔軟さを失いました。顧問をしていた書道部



千葉紅雪

の生徒に部活の再開を問われた時、こんな時だからこそ書が必要なんだと改めて実感しました。部活を待ちわびる生徒の中には、大切な家族を亡くした生徒もいて、黙々と書に向かう姿は、書くことで現実を受け入れようとしていると気づきそこには、かつての自分を重ね合わせていました。

震災後からは「祈り」が天まで届き、天にいる大切な方々が私たちを見守っている「鳥瞰図」のような造形を求めて制作を続けました。掲載作品は、宿墨した墨を1週間ほどかけて紙に流し込み、「祈り」の想いを込めながら、昼夜、作業を繰り返し続けました。濃墨の強い動きのある線は、「未来・希望」を表現しました。

小学生の頃、書初めの宿題が大の苦手の私に仕上がるまで付き合ってくれた母は昨春95歳で亡くなりました。母の仏前に夫・蒼玄が「さまざま事 思い出す 桜かな」の色紙を供えてくれました。桜の舞い散る中で見送った母は、「あんなに苦手な書道をよく頑張ったね」と私を褒めてくれたでしょうか?そして、師・大内魯邦先生は、今も「紅雪の作品は気持ちがいい」と言ってくれるでしょうか?

魯邦先生から、「前衛書」の世界に引き込まれ、目に見えないものを追求し、今尚、答えを探し続ける現在。それだからこそ魅力的な世界だと確信しています。

新年おめでとうございます

謹賀
新年



令和五年卯の年を迎えるました。コロナウイルスに振り回され続けて4年目になります。
加えて、昨年は、ロシアによるウクライナ侵攻という、戦争体験のない私たちにとっては想像を絶する光景を突きつけられたりもしました。不穏な世相にあって、文化とは、書に向かう意義についてなど、皆さん考えられたことだと思います。

書道界では、そんな状況の中、敢えて一人一人、そして仲間と共に一層今を照らし出す書活動を再開してきました。自粛をしつつも通常の開催ムードとなってきた気配です。本院も、昨年の第75回記念展を無事終了し、記念役員作品巡回展も滞りなく13会場で開催することができました。さまざまな厳しい日々の営みではありますが、熱いメッセージと共に先達の諸先生が築かれた長い柔軟な歴史を継承しつつ、新たに何かを加え、若い人たちにも希望を持ってもらえる書道芸術院でありたいと思います。

書道芸術院は、今正に、ターニング・ポイントです。令和という時代にあってどちらに身を置いて歩いて行けばよいのか、多様性が叫ばれる昨今、5部門を擁する書道芸術院が、それぞれ強い発進力を持って芸術的アイデンティティーを世の中に提示していくよう、役員一同心して努力、精進してまいりたいと思います。皆さま方の一層のご協力、ご支援をお願いし、新しい年にあたってのごあいさつといたします。

令和五年元旦

公益財団法人書道芸術院理事長

下谷洋子
役員一同

現代詩文書基礎基本講座(32)

小竹石雲

前衛書基礎基本講座(8)

千葉蒼玄

【臨書から現代詩文書への展開】

・原文

處稱尊也

①写実的臨書

處稱尊也

②発展的臨書

處稱尊也

「處稱尊也」

【黄州寒食詩卷跋】黄庭堅 北宋(100年)
尊敬する親友蘇軾の名品「黄州寒食詩卷」の巻末に付した跋文である。注目すべきは、本文に比べ跋が非常識とも思えるほどの大きさで書かれていることである。また含蓄と気象の大きさから、この書の方が優れていると推されることが多い。

特徴

・運筆の速度は、書き出しは味わいながらゆっくりな感じで、書き進むにつれてスピードを増す。概して横画や右斜め下への線はゆったりと進み、縦画や左斜め下への線は鋭く爽やかに引かれている。造形上では概ね縦長、右上がりの字形である。手足がのび、線のゆれ、中心線などのズレが特徴的である。

①写実的臨書

変転自在な偶然性の強い卒意の書であるが、長く伸ばされた線は動きに余裕が感じられる。

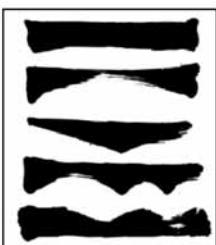
・右上がりでありながらも、絶妙なバランス感覚に雄大さを感じる。

②発展的臨書

・懐の余白をえてみた。それに伴う強弱、太細の変化をつけ、爽快さを際立たせてみた。

前回、書の線の特質（一度の作業で輪郭線と面ができる）を述べたが、今回は実際どのような線が引けるのかを試してみたい。

○ 側筆・直筆、順筆、逆筆



側筆（線の片側を筆先が通る）



直筆（線の真ん中を筆先が通る）

直筆、側筆の少し極端な例を示したが、筆の開閉（太い細い）は、漢字でもかなでも近代詩文でも行っている。これがなければマジックで書いたような線となってしまう。

逆筆（進む方向に対し筆の軸が逆に傾く）で書けば線は太くなり開く。順筆（進む方向に筆の軸が傾く）であれば線は細くなる。

軸の角度



側筆

直筆

逆筆

順筆

例として佐理の「離洛帖」を臨書してみた。原帖は側筆であるが、あえて同じ太さの線と、太い細いを強調した線で書いてみた。



線の動きの変化が感じられるだろうか。これが書の線の特質であると考える。

書道芸術院創立記念日 特別公開講演会

令和4年11月23日(水・祝)
於 上野精養軒

「明末清初の書」

講師 高木聖雨先生

＜公開講演会＞

理事長 下谷洋子

講演の本題に入る前に、書道が「登録無形文化財」に登録され、日本書道文化協会がその保持団体となつた経緯など、書道界の現況をお話しいただきました。

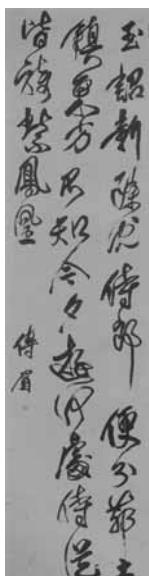
続いて「明末清初の書」と題し講演に入りました。

始めに、明末清初のロマン派と言われる董其昌の出現以来、次々と登場した祝允明、文徵明、傅山、王鐸、張瑞圖の六人の書人の書を取り上げ、スタイル映写を基に、この時代の書の特徴を話されました。字形・書線の傾き・

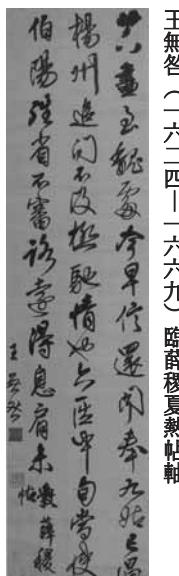
太細・字画の多少・疎密・白と黒のせめぎ合いなどと共に、明清書人の解説の間にはさまれる「書譜」の中の言葉や、青山杉雨先生のお言葉など、古典を学ぶ意義を初心者にも解りやすく説かれ、なぜこの時代の書が現代の我々の取り組んでいる漢字書に結び付いているかの所見を具体的に詳細に講演していただきました。

会場には、高木聖雨先生所蔵の董其昌の「陶淵明詩帰去來辭」の巻子、王鐸の息子「王無咎」の書・傅山の息子「傅眉」の書一幅をご持参いただき、講演会参加者にとって貴重で有意義な学書の機会となりました。

高木聖雨先生にはご多忙の中、予定の時間を大幅にオーバーしての講演となり、深く感謝申し上げます。



王無咎（1618—1664）七言絶句軸



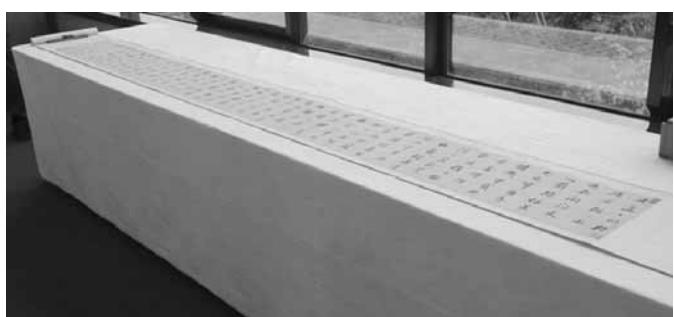
董其昌（1555—1636）临薛稷夏热帖轴



ご講演中の高木聖雨先生



150名ほどの聴衆者でいっぱいの会場



董其昌「陶淵明詩帰去來辭」の巻子

第76回書道芸術院展

併催=第74回全国学生書道展

会期：令和5年2月5日(日)～11日(土・祝) 6日(月) 都美休館日
9:30～17:30 (入場は30分前まで) ※11日(土・祝)は14:00閉室

会場：東京都美術館（上野公園内）
〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36 TEL 03-3823-6921(代表)

主催：公益財団法人 書道芸術院

後援：文化庁・公益社団法人 全日本書道連盟・毎日新聞社
(一財)毎日書道会

《表彰式》令和5年2月5日15:30～(受付15:00～)
帝国ホテル 富士の間

《作品解説会》東京都美術館展示会場

- ・令和5年2月8日(水) 10:30～ 一般・無鑑査作品を中心に
 - ・令和5年2月8日(水) 14:00～ 秋季展推薦作家を中心に
 - ・令和5年2月11日(土・祝) 10:30～ 役員作品を中心に
- ※祝賀会は中止

第74回全国学生書道展

・全国学生書道展指導者作品展示

会期：令和5年2月5日(日)～11日(土・祝) 6日(月) 都美休館日
9:30～17:30 (入場は30分前まで) ※11日(土・祝)は14:00閉室

会場：東京都美術館（上野公園内）学生展展示2階 第2展示室
〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36 TEL 03-3823-6921(代表)

主催：公益財団法人 書道芸術院

後援：文化庁・公益社団法人 全日本書道連盟・毎日新聞社
(一財)毎日書道会・毎日小学生新聞

《席上揮毫会》令和5年2月5日(日) 10:00～

東京都美術館学生展会場

《表彰式》令和5年2月5日(日) 13:00～(受付12:00～)
帝国ホテル 富士の間

《ワークショップ》令和5年2月11日(土・祝) 10:00～

学生展展示会場

〈解説〉 1930年から約1年間にわたって、スウェン・ヘディン(1865-1952)を団長とするスウェーデンと中国合同の「西北科学考古団」が中国の内モンゴル自治区から甘肃省酒泉市の東北部にわたる居延烽燧遺跡を調査し、1万件以上にのぼる漢代の木簡を発見した。調査団にはスウェーデンのフォルケ・ベルクマンや中国の黄文弼が参加した。発見地名から、これら一群の木簡は「居延漢簡」と名づけられた。図版の(1)・(2)居延漢簡はともに書体は八分隸で書かれ、書写した年号が明記されている紀年簡である。(1)元康元年簡は「元・盡・告」の波磔、「効」の左払い、「年・籍」の縦画終筆部分などに躍動感溢れる表現が見られる。(2)元康四年簡は西域地方の前線基地で辺境防備の任に当たる兵士たちの行動の実態を伝える記録である。整った八分隸で書かれ、伸びやかで美しい波磔が特徴である。(編集部)

(2) 居延漢簡 前漢 前62年



①元康四年六月丁巳朔庚申。左前候長／禹敢言之。謹移戌卒貰賣衣財／
②物爰書名籍一篇。敢言之。

中央研究院歴史語言研究所
(台北) 藏



※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

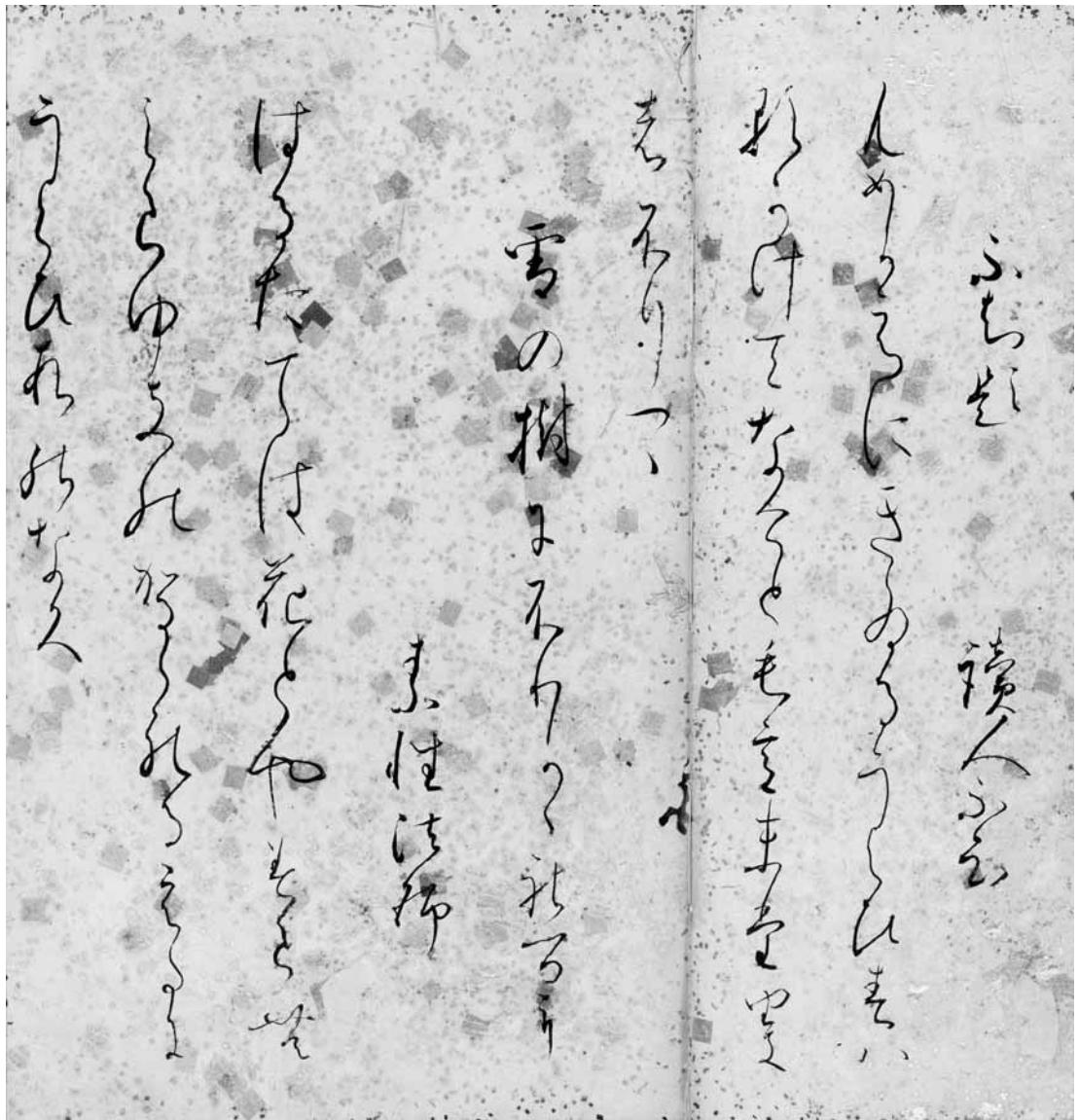
特別研究部臨書課題 (A. 大作の部) 每日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可
(B. 小品の部) 半切以上半切以内、全紙以内も可(A・B縦横自由) 当該古典の上記掲載部分以外も可。

--> ご注意// 今月の特別研究部は当ページ上記掲載の(1)・(2)「居延漢簡」の中から臨書箇所を選び、出品して下さい。

かな研究部臨書課題
特別研究部臨書課題

B.A. (半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)
大作の部毎日展覧会員・会員サイズ以内、2×6尺全紙も可
B.C. 小品の部毎日展覧会員・会員サイズ以内、2×6尺全紙も可
△いずれも左記の掲載以外も可。V

※掲載図版・73%に縮小



(東京国立博物館蔵)

〈よみ〉
不 知レ題 読人不知
むめがえにきるるうぐひすは
類可天介毛筆未堂由支
るかけてなけれどもいまだゆき
者不
ふりつ
はるたてば花とやみらむ
しらゆきのかゝれるえだに
うぐひすのなく
雪の樹にふりかゝれるを

〈解説〉元永本古今和歌集は、『古今和歌集』20巻を上下一帖の冊子に書写したもので、完本として現存最古の遺品である。上巻に仮名序と卷一から卷一〇まで、下巻に卷一一から卷二〇までを書写している。図版は上巻部分である。美しい料紙に、リズミカルで流麗な書風で書写され、下巻ではさまざまな散らしの妙も見せていている。「元永本」の名称の由来は、上巻の末尾に本文と同筆で「元永三年七月廿四日」の奥書きがあることにによる。もと加賀国前田家伝来のものが、明治に入り三井家に譲渡された。明治45年に三井高広氏の遺志によって東京国立博物館に寄贈され、今日に至っている。国宝。(編集部)

※古筆は原寸(以上も可)で臨書します
※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみ也可)

名 越 蒼 竹

良賈深藏若虛

(史記)

(良賈は深く藏して虚しきが若し)

優れた人は深く内にたくわえ、
妄りに外に表さない。



行草書の美をほぼ完成の域まで
高めたのは王羲之とされています。
その用筆は無理なく自然であります。
がら、多彩な表現に目を見張るもの
があります。字形は頭部が左に
傾ぐ傾向があり、王法の伝承者と
言われた米芾や趙孟頫も同じ癖を
持っています。

今回はこの書風を利用して6字
を書きました。文字の大小変化も
固有の字形・画数を大切にしながら
自然に感じられるように配慮し
たつもりです。羊毛筆を使って書
きましたが、もう少し線の強弱
(太さの変化)をつけたほうが良
かったかもしれません。長峰よりも中峰の筆が差をつけやすいよう
です。

良賈深藏若虛

よみ(良賈は深く藏して虚しきが若し)

書体=自由

習い方解説 四

川島舟錦選書

(張南軒)

瑞日祥雲
(瑞日祥雲)

めでたき日に、めでたき雲。瑞
兆をいう。

今年は卯の年。卯年生まれの人は、
もの静かで優雅、繊細なだ
そうです。

「瑞日祥雲」—めでたき日に美し
い雲。これはよいことが起こる前
兆。

どうぞ健康で平穏な1年であり
ますように。芸術やスポーツなどに
誰もがいそしむことのできる平和な
世の中であってほしいものです。

のびやかに大らかに4文字を紙
面にまとめるとは容易なことで
はありませんが、筆の弾力を活か
しながらリズムを掴むまで練習を
重ねましょう。

「楷書が基本」とか「楷書が書
けないと行書、草書もできるもの
ではない」とか「行書、草書はで
きるが、楷書ができない人は多い」
など、50年前に叱咤激励されたこ
とを思い出します。年令は重ねて
も「いよいよ楷書は難しい」と感
じるところです。

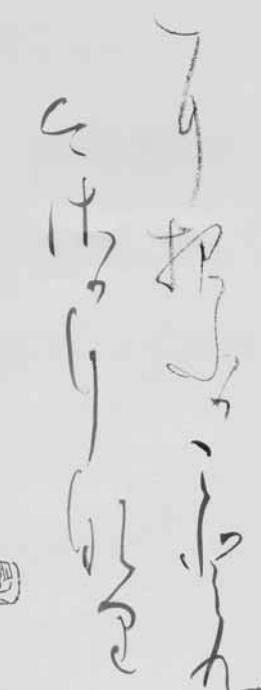
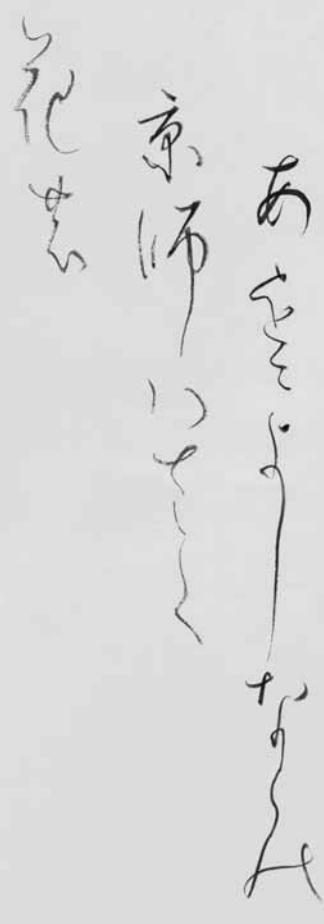
瑞日祥雲 よみ(瑞日祥雲)



習い方解説

石井明子

青丹よし寧なラ京師は咲く花の
薰ふが如く今盛りなり
(小野老「萬葉集」)



奈良の都は咲く花の色香もあざや
かなように今繁栄の極みであるよ、
との意で新春に相応しく心が浮きた
つ歌です。

作品を創るとき、私は自分らしく
を願いますが、一方では多くの人に
良く見てもらいたいという気持が働
きます。その葛藤は生涯続くのでは
ないかと思います。そのことに振り
回されないためには、筆をとるだけ
ではなく、基本的、総合的に美意識
を高めていくことしかありません。
そのための一つが、長い時間、多く
の人に耐えて残ってきた古筆と
向き合うことです。美とは何かが感
じられるようになります。考えるよ
り感じることを大事にしましょう。
現在は、作品から制作者の楽しさ
が伝わる表現に惹かれています。

* 料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使
用しましょう。

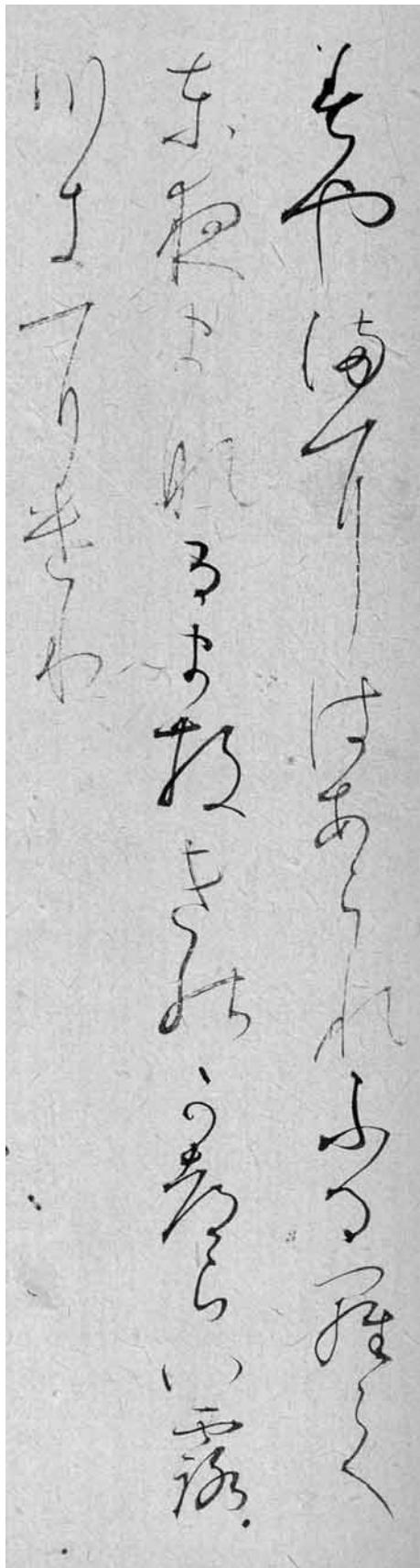
よみ方 青丹(あを)に(一)よし寧(な)楽(ら)の(能)京師は(八)さく(久)花の(農)
薰(耳報)ふが(可)ご(こ)と(登)く(九)今盛(佐可)りな(那)り(里)

創作

かな規定 秀級以下【一月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真的和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿または單体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



習い方解説 ①

かな条幅規定【一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

松村くに子選書

松村くに子
春來ぬと人は言へども鸞の
鳴かぬかぎりはあらじとぞ思ふ

(王生忠寄「古今和歌集」)

古今和歌集より、春のはじめの歌です。

2行目の渴筆箇所は筆先の扱い

と速度が重要です。連綿線を除いても「続ける」という意識をもつて運筆すると、自然と氣脈が生まれ、リズムある表現になります。

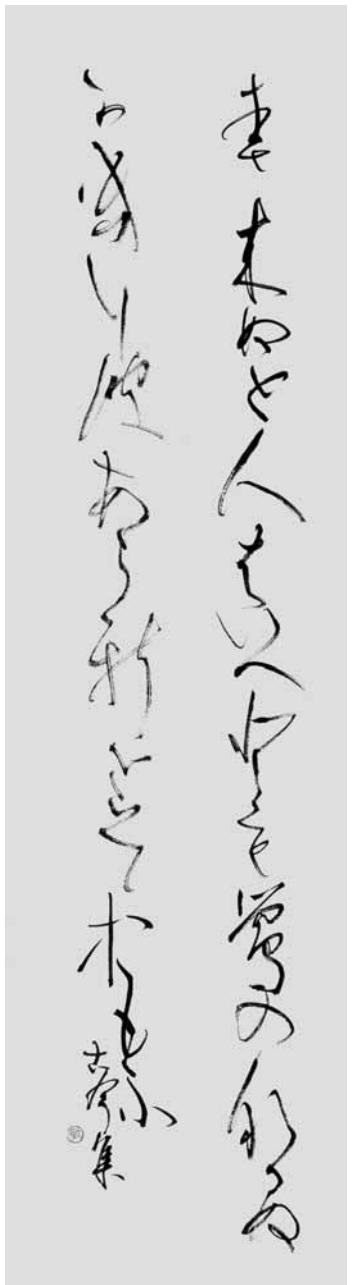
行末の余白に本文の「古今集」を添えてみました。歌と調和するところが大切です。全体の風景が引き締まると思います。

よみ方 春来ぬと人は(者)言(ふ)へど(登)も(毛)鸞の

鳴(那)か(可)ぬか(可)ぎ(繼)りは(波)あらじ(新)とぞ思(於も)ふ 古今集

*タテ形式に限る

創作



漢字 条幅 規定 初段以上 【二月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

小竹石雲 選書

習い方解説 四

小竹石雲

重々碎錦片々眞花 紛披草樹散亂烟霞
（褚遂良「枯樹賦」）
草樹散亂烟霞 不宣

重々碎錦片々眞花 紛披草樹散亂烟霞
（褚遂良「枯樹賦」）
（重々たる碎錦、片々たる眞花、草樹に紛披し、煙霞に散乱す）

書体＝自由

前回の王鐸風よりも少し清楚な感じで米芾を参考にしてみました。王羲之中庸を受け継いだ米芾は、彼独自の爽快感を加え新しい世界を切り拓きました。爽快感を表現するにあたっては、字形は概ね縦長にし1字の中に太細強弱の変化を加え、大胆な右上がりの線をつし、緊張感のなかにゆとりを持つて書けるといいですね。

※タテ形式に限る

漢字 条幅 規定 秀級以下 【二月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

小林琴水選書

習い方解説 四

小林琴水

雪滿山中高士臥
月明林下美人來

書体＝自由

雪滿山中高士臥 月明林下美人來
(雪は山中に満ちて高士臥し月明の林下に美人来る)

今月から2行書きです。肉太に書いて見ました。筆先は直に立て、ぐいぐいと、筆を押し進めて下さい、軽やかに、筆先を使うところも強弱をつけて下さい。

廣瀬舟雲

天賦の才能がないといふのも
悲觀すぐちではない。
才能がないと思つたからには
それを心得すればいいのだ。

二一チエのことば 舟雲書

ドイツのフリードリヒ・ニーチェは、有名な西洋哲学者です。天賦の才能とは、生まれながらにして備え持っている才能。こんな天から与えられた才能を持つ人は一握りです。どんな人も自分から貪欲に学べば、それに近づけるし、抜くことだってできる。とにかく前向きに勉強しようということです。書の道も同じです。同じ熟語が2度出てくるので、ここでは書体を変えて調和するように書いてみました。

天賦の才能がないといつても
悲觀すべきではない。
才能がないと思うのならば
それを習得すればいいのだ。
二一チエのことば

書体=自由

◇用紙 ハガキ大(14×10cm)の白紙を使用
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

「」注意!!

用紙の大きさにばらつきが見られます。
用紙サイズ(ハガキ大14.8×10cm)を守って下さい。

歳旦 厳寒 大阪府 兵庫県

歳旦 厳寒 大阪府 兵庫県

春の待ち遠しいこの頃ですが、皆様には

春の待ち遠しいこの頃ですが、皆様には

西川翠嵐

(楷書) 歳旦 厳寒 大阪府 兵庫県
(楷書) 春の待ち遠しいこの頃ですが、皆様には
(行書) 歳旦 去年 大阪府 兵庫県
(行書) 春の待ち遠しいこの頃ですが、皆様には

基本用語 「歳旦」一月一日の朝。元旦の意。
「厳寒」厳しい寒さの候。

- ◇ 小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を (掲載手本90%に縮小)
◇ 用紙は普通版半紙横1/2(24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
◇ 所定の出品券を作品の右下に貼る 〈審査会員を含む誰でも出品可〉

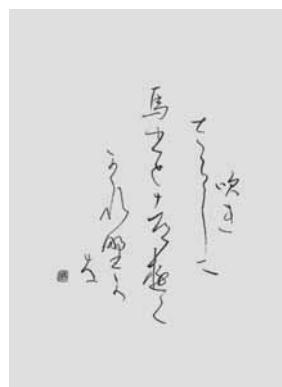
今月の

ホープ作品 各部総評

No. 739

かな部 師範 齋藤 杏園

文学的深い理解に基づく作品は見る側を引きこんで飽きさせない。柔らかな筆致はどれ程の修業か？◎かな部総評 句の中心となる馬に曖昧な字が多数あり残念。参考手本の内に迷わされた人が多かったが常に独自の創作を目指そう。（明子評）



漢字条幅部 特選 石森 光華
漢字条幅部 師範 豊田 翠玉



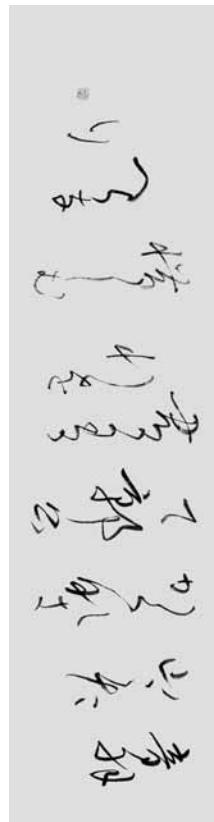
漢字条幅部 特選 庄司 紫千
漢字条幅部 師範 豊田 翠玉



前衛書部 特選 庄司 紫千
前衛書部 特選 仙岳 豊豊
前衛書部 特選 仙岳 豊豊

運腕大きめ力強い線質みごと。
広がりがあり、ダイナミックで表現豊かな堂々の作品です。

◎前衛書部総評 作品全般のレベルアップ望みます。紙面構成を自然体で楽しく。（仙岳評）



漢字条幅部 五段 浜野 永算
漢字条幅部 師範 豊田 翠玉

翠玉書

◎漢字条幅部総評 全般にレベルの高さを感じ取れる好作品が多く見られた。さらに古典の裏付けをしっかり。（大峰評）

（大峰評）

かな条幅部 五段 浜野 永算
かな条幅部 総評 散らし風の手本のため行間のとり方が難しかったようです。漢語で始まる時は、墨量を抑えるとよい。（洋子評）

◎漢字条幅部総評 全般にレベルの高さを感じ取れる好作品が多く見られた。さらに古典の裏付けをしっかり。（大峰評）

（大峰評）

漢字部 師範 磯貝 清耀
漢字部 師範 磯貝 清耀

濃墨のねばりと変化に富む太細の線を縦横に駆使した大変見事な秀作。明るく爽快なところが魅力。

古典学習を基にした創作が大切なことは言うまでもないが、焦らず深く学書してほしい。（石雲評）
◎漢字部総評 書体、書風幅広いことは言うまでもないが、焦らず古学習を基にした創作が大切なことは言うまでもないが、焦らず深く学書してほしい。（石雲評）
◎漢字部総評 書体、書風幅広いことは言うまでもないが、焦らず古学習を基にした創作が大切なことは言うまでもないが、焦らず深く学書してほしい。（石雲評）



ペン字部 師範 秋谷 美里

◎ペン字部総評 今回の課題は字数が少ないので天地の余白に苦慮された作品が多くあった。ペン選びも苦心の跡が伺えた。（雪枝評）

（雪枝評）

成功を祝うのはいいが、もっと大切のは失敗から学ぶことだ。
ビル・ゲイツの名言 美里

実用書優秀作品

選評 大平邑峰

◎ 実用書部総評

全体のレベルの向上を実感した。平がなの基本的な連綿を習得しておきた
い。用筆、紙面に一考を要する作品が散見された。
(邑峰評)

特選 伊澤香雨
大らかな運筆でしつかりとした字
形、行意も自然で心地よい。

霜月 春秋 三重県滋賀県
霜月 春秋 三重県滋賀県

特選 坂本芳博
手本を意識しつつ個性を發揮。
い線質で字形も良く堂々たる作。

霜月 蓼秋 三重県 滋賀県
霜月 慕秋 三重県 滋賀県

前衛書部（特選）

現 代 詩 文 書 部 (特選)



美祥敦朱優邑和覺惠津子山香羅子音子櫻翠

爽やかな線で魅力的
滲みの中の線質力強い作
構成が巧み躍动感あり
墨色に工夫造形美しい
響きあり表現力軽快

選評大石仙岳

汀一文裕春
泉舊廬子子

一間においての運筆が佳
飾らない線で白を生かす
素朴にして自由を求める
滋味な線に温もりを感じ
淡墨の外輪に説得力あり

喜 藤 信 景 淑
代 美 凰 代 燦 子

大字と小書きがマッチ
悠然として紙面を制す
詩情豊かで一貫性あり
揺るぎない強靭な線光る
構成と墨使いがお洒落

一美 溪すみ子 恵泉

闊達な細線が紙面を走る
横書きにマッチした運筆
圧縮した黒が充実を呼ぶ
しなやかな筆運びがよい
左右の余白が輝やく作

美英睦琴葵
梢樹子燉龍

伸びやかにして筆線冴える
無理のない運筆が明るい
飛沫が効果的に響を生む
骨氣ある正直さがいい
温和で気品のある秀作

選評小竹石雲

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 下谷洋子 白石和楓 東福青菴 倉林紅瑠

小品の部

臨書 (千葉)
松重翠景
「針切」



松重翠景臨

135×35cm

◆渴筆の淀みない流れが
美しい。潤筆も重くなら
ずに筆が開閉し、習熟し
た針切の姿を映し出した。
(洋子評)

梅田紅雨書



部分拡大

現代詩文書 (植松)
梅田紅雨
「鳴沙降る日」



53×43.5cm

◆1字の中に空
間が生まれ、明
るい。渴筆鋭く
され、落款まで
潤筆が十分活か
され、落款まで
全体表現みごと。
(和楓評)

前衛書 (大拙社)
佐藤陽子
「萌」



佐藤陽子書

135×35cm

◆軽妙な運筆のリズムが
魅力。上下の造形をバラ
ンスよくまとめ、明るく
爽快な作となつた。墨色
一者を要す。
(紅瑠評)

曹大春秋酒秋直饗馮羊須史報謹問郭玄大家常錢祠給
（土屋恵仙）

土屋恵仙臨

135×35cm

◆筆鋒を利かした運
筆により、強い波磔
と緊張感のある起筆
が重厚さを醸し出さ
れている臨書作。
(青菴評)

臨書 (澄春会) 土屋恵仙 「乙瑛碑」

創作の部

総出品点数
66点

〔特選候補者〕

〔創作の部〕

〔漢字〕

〔現代詩〕

〔前衛〕

〔花埜高橋〕

〔坂本清琳〕

〔大雲奥村〕

〔四枝奥川〕

〔麗流〕

〔蓮月重村〕

〔美楓〕

〔蒼風笛木〕

〔惠月〕

〔重村〕

〔蓮月〕

〔原島〕

〔高橋栄美子〕

〔宗苑〕

〔茂木〕

〔大友〕

〔紅椿〕

〔春汀〕

〔江峰〕

〔洋江〕

〔英樹〕

〔耀芳〕

〔雄一〕

創作の部 (32点)
漢字 4点
かな 10点
現代詩 20点
篆刻 10点
前衛 8点
臨書の部 (34点)
漢字 132点
かな 2点

大作の部

かな
(清月) 小林嘉江 「心にも」

前衛書 (白珠)
工藤史音
「踊」



工藤史音書

◆ダイナミックな連筆
がスケールの大きな世
界を生み出した快作。
緊張感ある細線、空間
処理も巧みで現代感覚
に溢れている。

(紅瑤評)

◆確かな骨格が冴え
みごと。中央部の渴
筆に「光」の重厚さ
がバランス良く横溝
開し、余白も美しい
作。(和楓評)

英峰遊山紺野遊山
佐藤桂香千葉祥板垣青鳳
遊山紺野遊山
千葉祥板垣青鳳

司徒臣雄司空尹恭精首言魯前相壤盡言詔書崇聖追勸學執孔子佐春秋立孝經述五經演易繁輝經耀天地幽讚神明故特立廟庭成集四時奉祠事已即去廟有禮器無常人掌領請置百石平史一人典玉室廟春秋饗饗禮出王家錢給大酒直酒報謹問大常祠舊據馮平史郭玄諱對故事碑彌禮末行祠毛疋肺侍祠者孔子子孫大牢大祝令各一人皆稱廟大常丞至臨祠河寧尹給牛羊豕羅大兔各一大司農給餉祠臣恩以為如琰言孔子大聖財東山為漢帝任先世所尊相用東柱長吏備脩令獄如龍子孫敬恭明祀傳于四極可許臣請諸君為孔子廟置百石年火一入掌領禮器出王家錢給大酒直化如故事臣雄臣夷惠贊誠懶說之頃首頃首元元罷元元臣指目曰可元鼎三車三十日王寅奏隣陽官司徒公河南京武吳雄字宰甫司空乙亥年夏月

臨書
(紅瑤) 金井みどり「乙瑛碑」

司徒雄司空臣述五經演易繫辭無常人掌領請置大常司馬羊

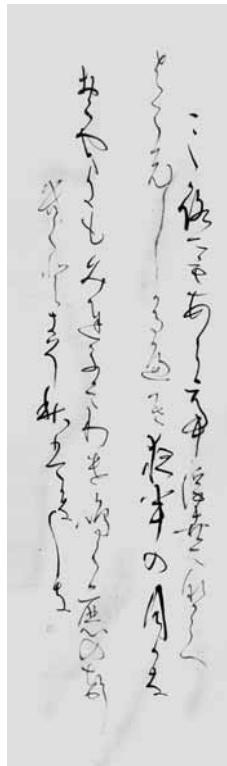
部分拡大

◆始めて、生き生きとしたリズムに引き込まれる。自分の呼吸で楽しみながら書いている様子が伝わる。（洋子評）

◆2×6尺に原碑のほぼ原寸大の臨書作。呼吸の乱れがなく、漢碑の特徴が充分に表現されている。集中力に敬服。
(青篁評)

に原碑のほ
臨書作。呼
べては乙瑛碑
に表現さ
れ中力に敬
(青篁評)

小林嘉江書



175×53cm

現代詩文書 (もくせい) 西川 藤象 「つねのうた」



西川藤象書

45×175cm

漢字
英峰 佐藤 桂香 遊山
千葉 紺野 遊山
華祥 板垣 叙舟
千葉 竹浪 青鳳

千桜	もく	青木
「かな」	藤漣	金子
玉松	田中	美千
水莖	耶衣	
奥田	清水	
秋山	蘭舟	
奥田	珠香	
橋本	翠風	
「現代詩」		
「前詩」		
四枝		
大友		
四峰		
「臨書の部」		
容阿	阿部	
花莖	邑里	
松風	高橋	
紅瑠	西條	
青蓮	佐藤	
佐々木	成美	
藍水	松雲	

输出品点数
46点

創作の部（32点）

漢字	—	4点
かな	—	11点
現代	—	4点
前衛	—	13点
臨書の部（14点）		
漢字	—	12点
かな	—	2点

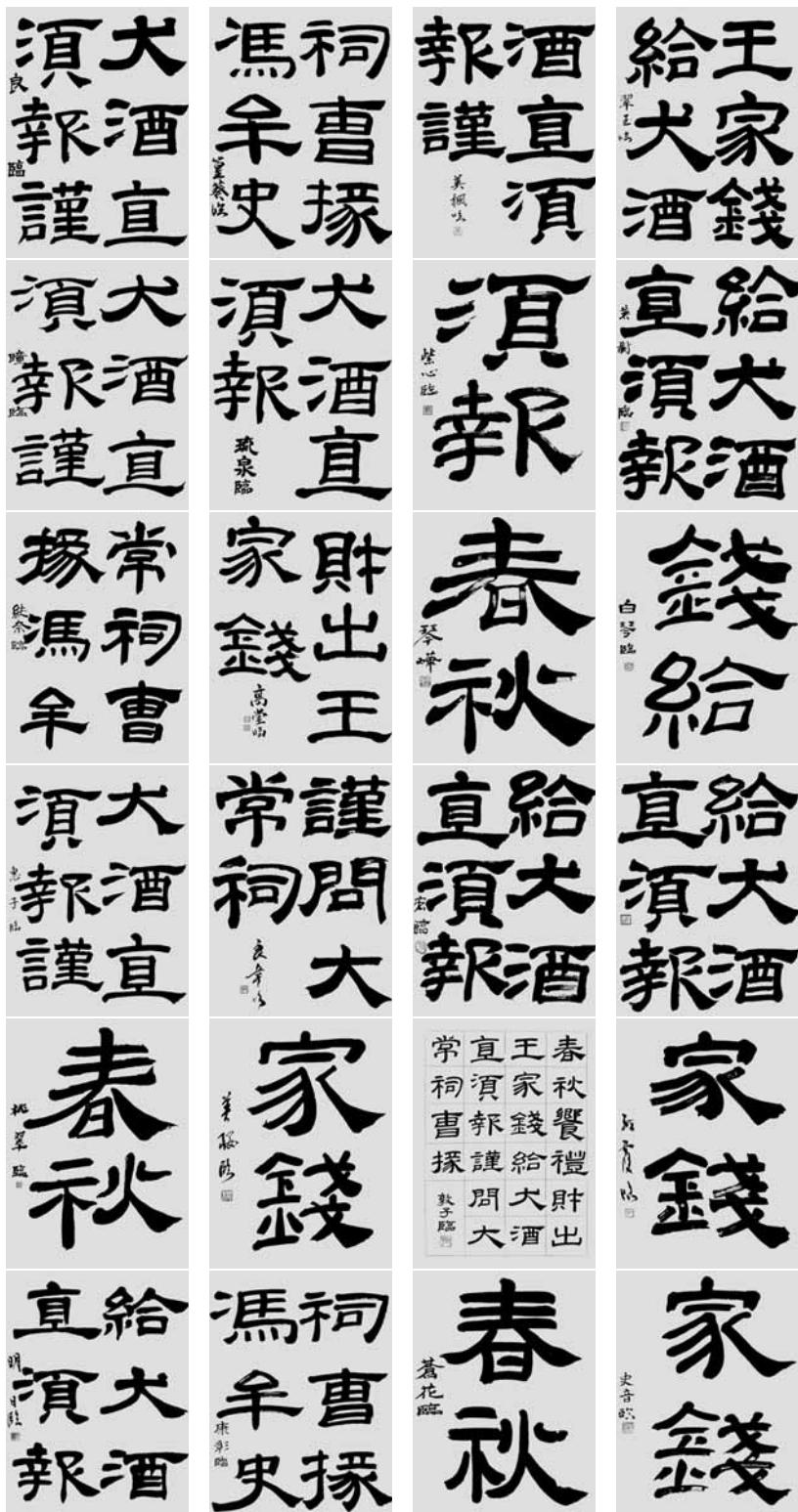
漢字研究部
(乙瑛碑)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



驚山美梢



漢字研究部 特選 驚山美梢

隸書の筆法、結体を充分理解した上で書かれた秀作です。特に横画の横への広がり、入筆の筆力は見事で安定した隸書作品です。また、作品全体の均整のとれた字形からは品格さえも感じられます。

◎漢字研究部総評

今回も多数の努力作が寄せられました。入選作品は隸書の基本の上に立って、均整のと

れた伸びある書線の作品が多くありました。残念なことに選外の作品の中には隸書体の用筆や結体に課題の残る作品が多くみられました。「用筆は逆入平出、結体は横画が水平で字形は横広」といった基本をもう一度確認して下さい。用筆、字形ともに楷書体そのものになっている作品が少なくありませんでした。篆書、隸書は楷行草体のルーツです。

明桃惠純 良日
夏翠子奈子

康美良高琉篁
彭桜章堂泉葵

蒼敦宏琴紫美
花子子樺心楓

史紅直白英翠
音霞子琴樹玉

か な 研 究 部

選評 佐 藤 希 雲

今月のホープ作品



新井惠子

かな研究部 特選 新井 恵子
紙と墨がぴたりと調和し、細い線が深くいい
込んで見えるのが素晴らしい。紙面全体が明るく、
さわやかな感じがして魅力があります。

◎かな研究部総評

2首田冒頭の「と（東）」の最終画は、原帖は
欠損していますが、補って書く必要があります。
見えたまま省略してしまっている作が多く、残念
でした。

選外	春芳幸早 選汀	青蘭椿禧 蘭扇翠月	生聲華華 聲葉真光	千高澄華 千葉雅秋	長月華祥 月華翠雅	千正華華 華葉露珠	千上華華 上葉露珠	千白珠華 白珠會田	千一草華 一草會田	千境清月 境清月真
69	渡山本 連邊名 氏多名 字名略	山山山山 山中田中 木村中木 安島木上	矢島森茂 崎部農茂 松木富野 島木原野	宮宮增前 松木原澤 松木原澤 島木原澤	福藤平山 松木平山 木原平山 島木平山	深平山口 松木口原 木原口原 島木口原	原原船口 松木船口 木原船口 島木船口	乘西山中 林萩西中 野原西中 山村西中	利守中江 德原中江 江由中江 寺原中江	
69	渡山本 連邊名 氏多名 字名略	山山山山 山中田中 木村中木 安島木上	矢島森茂 崎部農茂 松木富野 島木原野	宮宮增前 松木原澤 松木原澤 島木原澤	福藤平山 松木平山 木原平山 島木平山	深平山口 松木船口 木原船口 島木船口	原原船口 松木船口 木原船口 島木船口	乘西山中 林萩西中 野原西中 山村西中	利守中江 德原中江 江由中江 寺原中江	
69	渡山本 連邊名 氏多名 字名略	山山山山 山中田中 木村中木 安島木上	矢島森茂 崎部農茂 松木富野 島木原野	宮宮增前 松木原澤 松木原澤 島木原澤	福藤平山 松木平山 木原平山 島木平山	深平山口 松木船口 木原船口 島木船口	原原船口 松木船口 木原船口 島木船口	乘西山中 林萩西中 野原西中 山村西中	利守中江 德原中江 江由中江 寺原中江	
69	渡山本 連邊名 氏多名 字名略	山山山山 山中田中 木村中木 安島木上	矢島森茂 崎部農茂 松木富野 島木原野	宮宮增前 松木原澤 松木原澤 島木原澤	福藤平山 松木平山 木原平山 島木平山	深平山口 松木船口 木原船口 島木船口	原原船口 松木船口 木原船口 島木船口	乘西山中 林萩西中 野原西中 山村西中	利守中江 德原中江 江由中江 寺原中江	

●篆刻

【二月十五日締めきり】

〈出品規定〉審査会員を含む、誰でも出品可。

①摹刻

(ア)課題による語句
(イ)原印自由
(出品の際、原印のコピー添付)

②創作 語句自由



1月号 摹刻課題

- 印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。
- 印箋は市販のもの、半紙横½の大きさに切ったものも可。
- 創作、摹刻とも応募は一人一点。

<特選>



「周千秋」

摹刻

739号篆刻優秀作品

選評 後藤大峰

創作



「寒鴉」

◎篆刻部総評

今回もしっかりとされた作品が多く寄せられました。特に摹刻に好作品があり、来年も多くの方々から応募して頂けますよう祈念します。

画数の多い文字部分を的確に纏め上げて印面に収めた。好作品。

今回もしっかりとされた作品が多く寄せられました。特に摹刻に好作品があり、来年も多くの方々から応募して頂けますよう祈念します。

(大峰評)

(摹刻)	
秀	大雲原蒼遊小(5音順)
作	中雲大綱(5音順)
片岡佐藤庄中林	芳琴小野寺幸喜(5音順)
豪峰希雲研淳一(5音順)	大雲附中水茎(5音順)
美梢能進成田吉原(5音順)	小沢織田眞奈美(5音順)
一起(5音順)	華仙秀汀皓洋(5音順)
大日(5音順)	高岡金谷(5音順)
大雲香書(5音順)	鷺山須賀澤(5音順)
大雲(5音順)	華仙(5音順)
大雲(5音順)	美梢(5音順)
空心慈石(5音順)	生大(5音順)
空心(5音順)	中島(5音順)
作(5音順)	義則(5音順)
坂都丸坂藤井(5音順)	佳作(5音順)
龍花覚(5音順)	生大(5音順)
山峰(5音順)	中島(5音順)
富游唯見(5音順)	佳作(5音順)
水雲(5音順)	義則(5音順)
荒星赤(5音順)	宗苑(5音順)
木野(5音順)	やま(5音順)
星(5音順)	四枝(5音順)
庵文空(5音順)	声香(5音順)
蘭紫(5音順)	塚田(5音順)
庵文(5音順)	茂木(5音順)
華(5音順)	宮内(5音順)
華(5音順)	絢成子(5音順)
庵(5音順)	清麗(5音順)
庵(5音順)	美翠(5音順)
(選外なし)	絢(5音順)

用紙の右側に押印し、左側に印影の記文を明記、並びに落款(氏号)を入れる。

○出品方法

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
令和四年十二月二十五日印 刷 行
行 一 日 發 印 刷 行

(毎月一回一日発行)

書道芸術

第七四一號

101-0031	令和四年十二月二十五日印刷
令和五年一月一日發行	定価
発行人	下 谷 洋 子
印 刷	株式会社 リンクス
発行所	小沢写真印刷株式会社
公益財団法人 書道芸術院	1部 750円
東京都千代田区東神田一丁目六七	2部 95円
東京都千代田区東神田一丁目六七	3部 103円
電話 (03)3862-1954	4部 119円
FAX (03)3862-1957	5部 135円
振替 00-150-41350558	6部 151円
ホームページ http://www.lincs.jp/shohei/	7部 167円
	8部 183円
	9部 199円
	10部以上は 送料免除

コロナ禍の中、当分の間十六時まで時間の変更しております。

※お問い合わせ、ご連絡は、月曜日(金曜日九時~十七時の間)にお願いします。(土・日・祝日は休み)

101-0031

東京都千代田区
東神田一丁目六七
東神田プラザビル三階

電話(03)3862-1954
FAX(03)3862-1957

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は
公益財団法人 書道芸術院